

CYBERWORLD

マザックワールドコミュニケーションマガジン



共に、未来へ。

New Year's Greeting

年頭で挨拶

特集

ヤマザキマザック 100年の歩み

Customer Report

- 07 有限会社 功亜工業
- 09 株式会社 ニッコー
- 11 FLSmidth ABON Pty Ltd
- 13 MAZAK PEOPLE
- 14 Event Report
- 15 美術館情報

第29回日本国際工作機械見本市 (JIMTOF2018) マザックブース

2019
No. 56

年頭ご挨拶



ヤマザキマザック株式会社
代表取締役社長 山崎 智久

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、前年に引き続き自動車産業や半導体産業をはじめとする幅広い業種で設備投資が高水準に推移したことで工作機械業界は活況を呈しました。各企業の旺盛な設備投資意欲を反映し、9月に米国で開催されたIMTSや、11月に日本で開催されたJIMTOFでは過去最高の来場者数を記録しました。また、日本工作機械工業会の受注総額は2年連続で過去最高額を更新しました。

このような記録的な活況のなか、需要に供給が十分追いつかず、工作機械業界全体で機械納期が長期化し、お客様には大変ご迷惑をおかけしている状況です。この状況を改善するため、当社においては昨年新たな生産拠点である「いなべ製作所」を稼働させました。また現在、岐阜県美濃加茂市にある2工場の機能再編とiSMART Factory化を進めており、本年も引き続き納期短縮に向け、生産の効率化を行って参ります。

一方、米中貿易摩擦など世界経済に不確実性が増してきたことで、「世界同時成長」ともいわれた状況は変化しつつあります。今後が見通しづらい状況ではありますが、当社はこのような市場の変化に対し、日本・米国・欧州・中国・シンガポールのグローバル生産体制を生かして、プロダクトミックスや仕向地の変更など柔軟に対応して参ります。

製造業は今、変革の時を迎えています。自動車産業においてはEV化やシェアリングサービスにより、製造工程やビジネスモデルが大きく変化するとともにわれています。自動車以外の産業でも、グローバルで消費者ニーズが多様化するなか、多品種少量生産を効率的に実現する、いわゆるマス・カスタマイゼーションへの対応が求められています。それと同時に、労働人口の減少や人件費の高騰という課題にも直面しており、それらを解決する新たな製造技術や工作機械への関心が高まっています。

このようなニーズや課題に対応するため、当社では変種変量生産に適した自動化システムや、工程集約によるリードタイム短縮を実現する5軸複合加工機、AM技術などと融合したハイブリッド複合加工機の開発を進めています。さらに非熟練作業者でも最新の自動化システムや工作機械を簡単に使いこなせるようにするための、IoT・AI・デジタルツインなどの技術開発も同時に進めています。また、今年4月からIoTを活用した総合サービス「Mazak iCONNECT」の提供を日本で開始します。クラウドを活用した工作機械のコンネクティッドサービスとして、従来以上に充実したサービスサポートやソリューションを提供し、お客様の工場の生産性向上に貢献していきたいと考えております。

今年、2019年でヤマザキマザックは創業100周年を迎えます。このような大きな節目を迎えることができたのは、ひとえにお客様のご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。当社は創業以来これまでに海外での生産・サポート体制の確立や、対話式CNC装置「MAZATROL」、複合加工機の代名詞ともなった「INTEGREX」の開発など、業界に先駆けたさまざまな挑戦を続けてきました。このような挑戦を継続してきたからこそ、マザックブランドが世界中で認知いただけるようになり、お客様との厚い信頼関係を築くことができたと考えております。今後も挑戦を続け、お客様の信頼に応えられるよう邁進して参ります。

当社は創業100周年の記念事業として「ヤマザキマザック工作機械博物館」を今年の秋に開設する予定です。工作機械は一般の方が見る機会ほとんどなく、残念ながら認知度が低いのが実情です。この工作機械博物館を通じて工作機械を多くの方に知っていただき、ものづくりに関心を持ってもらうことで、製造業全体の発展につなげていきたいと考えております。

これまでの100年同様、今後も当社は「技術で社会や未来に貢献」して参ります。最後になりますが、本年も尚一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝を祈念申し上げます。

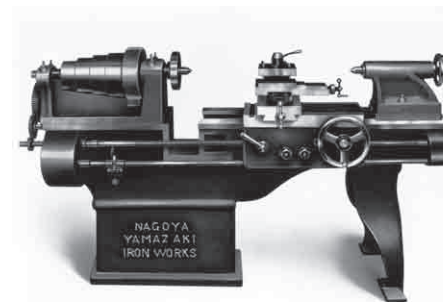
Mazak 100 YEARS OF CONTINUOUS PROGRESS

ヤマザキマザック 100 年の歩み

今年で創業100周年を迎えるヤマザキマザックの歴史を年表形式でご紹介します。ものづくりの発展を目指して歩み続けた、100年の軌跡をご覧ください。

1919-1964 年

製品沿革



外販第一号は、翌年の1928年に安井ミシン兄弟商会（現：ブラザー工業株式会社）に納入された4尺旋盤。その後工作機械の注文が増えたことから、1931年より工作機械の生産を本格的に開始しました。

1927
工作機械の
製造に着手

1959
汎用旋盤
LB 1500

1963
汎用旋盤
MAZAK 1500

企業沿革



1919
山崎定吉
山崎鉄工所を創設

当初は製畳機を製造販売。その後、木工機械メーカーとして事業拡大。

1944
第二次世界大戦の影響により、石川県に工場疎開

1947
終戦後、名古屋市に工場移設、リビルド業として再起

1961
大口製作所稼働

1963
ブランド名「MAZAK」を発表

欧米人にとって「YAMAZAKI」の発音は難しいため、YAとIを除いた「MAZAK」をブランド名として採用。海外市場を意識したブランド名は、当時の日本では大変珍しいものでした。



1962
山崎照幸
代表取締役社長
就任

1962
日本初 工作機械の対米輸出に成功

インチ規格への対応やベッドの焼入れ対応など30項目以上の仕様変更を行い、米国企業への販売に成功。この時の経験が、世界に通用する工作機械の製造技術習得へとつながりました。



初の対米輸出「成約」を伝える当時の新聞記事

1968



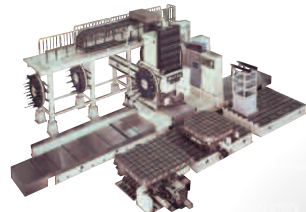
NC 旋盤第一号
MTC 1000M

1970



マシニングセンタ
第一号 BTC. No.5

1976



YMS-30

マシニングセンタにワーク搬送機能・ATC 機能を搭載した当社初の本格的な機械加工システム。コンピュータ管理により長時間の自動運転を可能にしました。



1980

SLANT TURN
30 ミルセンタ

旋削機能とミル機能の両方を搭載した工作機械。現代のINTEGREXシリーズの原点にあたる製品であり、当社の工作機械の複合化への取り組みはここからスタートしました。

1983



MAZATROL
FMS

1987

MULTIPLEX
620

1台で CNC 旋盤 2 台分の加工能力を持つ「MULTIPLEX シリーズ」の初代モデル。この製品に採用した2スピンドル2タレット構造は、革新的なアイデアとして大きな注目を集めました。



1997

INTEGREX
200Y

B軸機能を搭載した「INTEGREXシリーズ」の初代モデル。斜め穴加工が可能であるなど、CNC 旋盤でありながらマシニングセンタ並みの加工能力を実現した画期的な製品でした。

1990



SUPER
TURBO X-48

1993



MODULARTech
SYSTEM

1998

MAZATROL
FUSION 640

「NC と PC の融合」をコンセプトに開発された CNC 装置。工作機械を工場内のネットワークに容易に接続することを可能とし、加工プログラムや治具情報の一元管理など製造現場の合理化に貢献しました。



1999

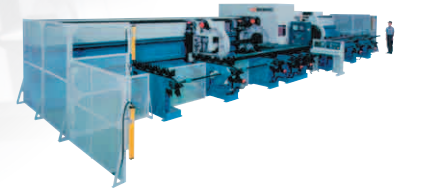
VARIAxis 200



1999

3D FABRI
GEAR 300

パイプ材の斜め加工を可能としたレーザ加工機「3D FABRI GEAR シリーズ」の初代モデル。従来、手作業で行われていたパイプ切断の自動化を実現し、建築資材をはじめとした長尺鋼材の加工リードタイム短縮を可能にしました。



1960

1970

1980

1990

2000

1965

名古屋から
愛知県大岡町に
本社移転

1968

Yamazaki Machinery
Corporation
(米国現地法人)設立

1969

日本初 NC旋盤の
対米輸出に成功

1974

米国工場 稼働

米国ケンタッキー州に工場を建設し、ノックダウン生産を開始。その後拡張工事を重ね、1983年には部品加工から組立まで行いう一貫生産体制を整えました。



1975

Yamazaki Machinery
Europe
(ベルギー現地法人)設立

1978

YMS-30 が
日本機械学会賞を
受賞



1981

大口製作所
FMF工場 稼働

自社製 FMS 導入により夜間における無人加工が実現したことで、工場稼働率が飛躍的に向上。テレビ番組「ゆく年くる年」で取り上げられたほか、欧米有力メディアも多数取材に訪れました。



1983

美濃加茂製作所
稼働



1981

高度生産システム振興財団
(現：マザック財団)設立



1985

「ヤマザキマザック」
へ社名変更

CI キャンペーンを実施。社名を山崎鉄工所からヤマザキマザックへ変更。企業カラーには、温もりと情熱を表すオレンジ色を採用。「M」ロゴの中の三本線は、高品質・先進性・国際性を表しています。



1987

英国工場 稼働

1984 年の日英首脳会談上で、当時のサッチャー首相が英国国内での当社工場建設を要請。無人化工場の取り組みが高く評価されての誘致であり、この会談を契機として当社英国工場は誕生しました。



1988

全米最優秀企業賞
(トップ 10)



1992

シンガポール工場
稼働



英国女王賞
(2007年にも受賞)



1998

大口製作所
サイバーファクトリー化



2000 中国 小巨人工場
稼働

CNC 旋盤の生産からはじまり、現在では横形マシニングセンタや自動化システムを生産。"小巨人"という工場名には「少数精鋭で、多くの製品をつくる」との意が込められました。



2001



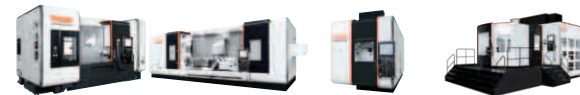
INTEGREX e-410H INTEGREX e-1060V

大型複合加工機「INTEGREX e-H・e-Vシリーズ」の初代モデル。切削能力の強化に加え、オペレータを支援する各種通信機能の搭載により、複雑・大物部品加工の大幅な生産性向上を実現しました。

2008

人間工学に基づく総合的な デザイン開発を加速

世界的な工業デザイナー奥山清行氏とのコラボレーションを開始。
革新的かつ操作性・作業性を追求した総合的なデザイン開発を加速しました。



2010 **INTEGREX i-300** 2010 **INTEGREX e-670H II** 2011 **VARIAXIS i-600** 2013 **INTEGREX e-1250V/8 II**

2002



VERTICAL CENTER NEXUS

2004

保守監視サービス 「MAZA-CARE」

携帯電話回線を利用した 24 時間
365 日対応の保守監視サービス。
オンラインによるサービスサポート
の提供は、現代のコネクティッド
サービスの先駆けともいえる画期
的な取り組みでした。

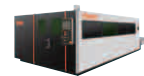


2005



MAZATROL MATRIX

2011



OPTIPLEX 3015 Fiber

2014



INTEGREX i-400 AM VTC-530/20 FSW

従来の工作機械に異なる加工技術を融合した「ハイブリッド複合加工機」。金属積層造形技術と融合した「AM シリーズ」、摩擦攪拌接合技術と融合した「FSW シリーズ」を JIMTOF2014 で発表。

MAZATROL SmoothX



タッチスクリーンの採用により、直感的なプログラミングを可能にした CNC 装置。加工速度・加工面品位を高める新機能の搭載やネットワーク接続機能の強化などにより、工作機械の生産性を大幅に高めました。

2016

Mazak SMARTBOX

工場設備の安全・確実なネットワーク接続を実現した「Mazak SMARTBOX」。世界中のお客様の工場のスマートファクトリー化に貢献しています。



2017



OPTIPLEX 3015 DDL

2018

INTEGREX e-1250V/8 AG



複合加工機に歯車加工専用機能を融合させたハイブリッド複合加工機。歯車加工の全行程を1台で完結、リードタイムの大幅な短縮と高精度加工を実現しました。

「Mazak iCONNECT」発表

IoT を活用した総合サービス「Mazak iCONNECT」を発表。
コネクティッドサービスをさらに進化・拡充。

そして、
次の 100 年へ

2001

山崎智久
代表取締役社長
就任

2006

ワールド
テクノロジー
センタ 開設



2004

「DONE IN ONE」 コンセプト発表

「1台で全加工」を意味する DONE IN ONE は、
当社が目指す「究極の工程集約」を表すコンセ
プトとして発表されました。この思想は、現在の
ハイブリッド複合加工機の開発にも反映され
ています。



2006

美濃加茂
第二製作所 稼働



2008

オプトニクス
地下工場 稼働



ワールド
パーツセンタ 開設



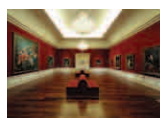
2009

ワールド
R&D センタ 開設



2010

ヤマザキマザック
美術館 開館



2013

中国 遼寧工場
稼働



2017

大口製作所 iSMART Factory化



最先端のIoT・自動化技術を活用した高度なデジタル製造を実現する「Mazak iSMART Factory」の取り組みを米国工場
でスタート。
2017年に大口製作所のiSMART Factory
化を完了し、世界各国の生産工場に展開。
最先端技術や新しい製造コンセプトの有
効性を実証するだけでなく、さまざまな
IoT・自動化ソリューションが新たな製品や
サービスとして生み出されています。

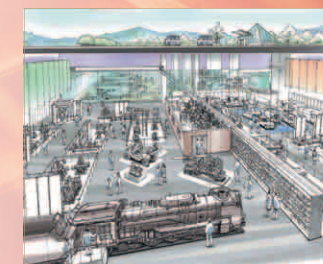
2018

いなべ製作所
稼働



2019

ヤマザキマザック
工作機械博物館
開館予定





01

Customer Report 01

精密部品加工のエキスパート集団を目指す

Japan 有限会社 功亜工業

医療用メスの刃先から新幹線のドア部品まで。有限会社功亜工業の手がける仕事は幅広い分野に及びます。鉄はもちろん、アルミ、ステンレス、チタン、樹脂など対応素材は多種多様。特に複合加工機や三次元測定機を駆使して精密な加工部品を短時間で納品する体制には定評があります。地元の同業者に「この仕事は功亜さんでないと難しい」と言わせる技術力は「挑戦する勇気」を掲げる創業者、高山利治社長が育んだもの。その姿勢は社員一人ひとりに受け継がれています。



Saitama, Japan



02



03



04

01. 半導体や自動車など、さまざまな産業を支える同社の加工部品
02. 多くのマザック機が並ぶ工場内
03. 複雑かつ精密な加工を短納期で仕上げるのが同社の強み
04. 高山社長（前列右から3人目）、高山専務（同4人目）と社員の皆さん

COMPANY PROFILE //////////////////////////////////////



有限会社 功亜工業

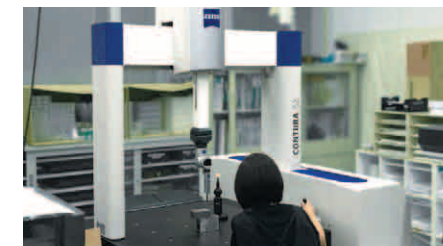
代表取締役社長：高山 利治
取締役：高山 文子
取締役専務：高山 功太
所在地：埼玉県日高市原宿177-6
従業員数：12名

www.koa-k.com

KOA

三日三晩かけて仕上げた試作部品

「同業者に負けない」ために高山専務が打った手は、精密部品の試作加工事業への本格参入。父親譲りの「挑戦する勇気」がもたらした決断です。しかし、描いた理想を実際の形にするのは容易ではありませんでした。「自動車関連で初めて受注した案件は、レーシングカー用の試作部品です。ところが納品するたび指摘を受けて返却されてしまう。結局、三日三晩マザック機と共に奮闘し、やっとの思いで複雑形状の部品を仕上げました」（高山専務）。この経験は同社に精密な試作加工を手がけることの難しさを痛感させた一方、それが実現できれば大きな武器になることを確信させる契機となりました。



三次元測定機を導入し、高精度を保証

2014年には、品質管理体制にさらに磨きをかけるため三次元測定機を導入。同業では類の無い大胆な投資でした。「三次元測定機とマザック機との相乗効果で、良品を作り上げる体制を整えることができました。精度に厳しい目を光らせる姿勢は、どんな形状でも加工できる技術力と併せてお客様の信頼を得ています」と高山社長は自社の強みに自信を深めます。

マザック機が支える“少数精鋭”の組織づくり

創業以来、マザック機は同社設備機の

Customer Report 01

Japan 有限会社 功亜工業

中心として顧客からの高度な要望に応えています。「当社が目指す高精度・短納期のものづくりをうまく支えてくれる」（高山社長）、「段取り時間がとにかく短く、小ロット部品の加工に最適」（高山専務）と2人が評するように、マザック機は同社のビジネスモデルの基盤となっています。INTEGREXを巧みに操り実績を積み上げる同社には、マザックが契約を結ぶ工業デザイナー「奥山清行氏」も過去に訪問。機械を知り尽くし、その性能を最大限発揮させる同社の的確なアドバイスは、その後のマザック機のデザイン・機能の進化に多大な影響を与えました。



同社のビジネスモデルを支えるINTEGREX i-200

「あらゆる加工要望に柔軟に応えるには小回りが効く組織づくりが重要」と考える同社は、社業発展の新たなキーワードとして“少数精鋭”を掲げます。「マザック機を使いこなし一人ひとりの技術を伸ばしていけば、どこにも負けない少数精鋭のエキスパート集団になれるはず」（同）と将来像を語ります。この言葉に続いて「2020年には社長職を譲り、会社の将来を息子に託したい」と明かした高山社長。その眼には、高山専務がエキスパート集団を力強く牽引し、さらに飛躍する同社の未来がはっきりと映し出されているようです。

▶ ハンドマイクの筐体（左）や
ベアリングリテーナー（右）など、
手掛ける加工部品は多種多様



08



Customer Report 02

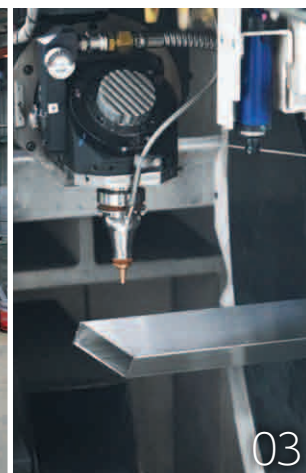
国内外の食文化を多様な加工機で支える技術力

● Japan 株式会社 ニッコー

「地場産業の発展に役立つ機械を作りたい」。水産品をはじめとする食品加工の省人省力化機械設備を手がける株式会社ニッコーの佐藤厚社長は創業当時をそう振り返ります。創業以来「顧客満足」を第一に掲げる同社は、業界初や世界初の機械を世の中に数多く送り出してきました。国内外から高く評価される多数の省人省力化機械は社員の半分以上を占めるエンジニアの知恵と努力の結晶といえるでしょう。メカトロニクス技術を生かし、さまざまな顧客ニーズを形に変えていく独自の技術力は大きな強みです。



02



03



04

01. 全自動で鮭を捌く「ヘッダーガッター連続処理システム」(左)とシルクアيسを瞬時に作り出す「海水」
02. 同社製品を支えるフレーム材は、3D FABRI GEARで加工
03. 手作業による加工と比べて格段に作業効率が向上
04. 佐藤社長(前列中央)と社員の皆さん

COMPANY PROFILE //////////////////////////////////////



株式会社 ニッコー

代表取締役：佐藤 厚
所 在 地：北海道釧路市鶴野110番地1
従 業 員 数：97名

www.k-nikko.com

技術集団



ニッコーはかつて水揚げ量日本一を誇っていた水産の街、釧路で佐藤社長が1973年に創業し、1977年に株式会社として設立しました。この年は日本の水産業に大きな影響を及ぼした「二百海里時代」の幕開けでもあります。「これを機に、日本の漁業は狩猟型から栽培型への転換を迫られました」(佐藤社長)。

水産業をめぐる環境変化により佐藤社長はこれからの漁業は「量から質」が問われるようになると予見。「日本の水産業が生き残るためには、これまでのように水産物を「原料」としてではなく、一次加工した「製品」として出荷するほうが得策」と考え、必要とされる機械の開発に力を入れました。



水産加工を変える新製品開発について力強く語る佐藤社長

佐藤社長は栽培漁業になじむ原料として地場で代表的なホタテと鮭に着目。ホタテ貝の殻に蒸気を当てて身を取り分ける「オートシェラー」や、鮭の頭部を切り落とし腹を開いて内臓や魚卵などを選び分ける「ヘッダーガッター連続処理システム」など、顧客のニーズを汲み取った数々の省人省力化機械を開発しました。

これらはいずれも世界初の機構を採用した独創的な水産加工機で、同社を代表する製品群として国内外の多くの水産加工現場で使われています。

一昼夜かかる製氷時間を3分に縮めた技術力

「量から質」への転換を唱えた佐藤社長が「鮮度こそ最大の付加価値になる」という信念で、完成に漕ぎ着けた連続式シルクアيس製造システム「海水」は第7回ものづくり日本大賞の内閣総理大臣賞に輝いています。

「海水」は船舶に積み込み、海水からシャーベット状の氷を作り出す機械で、従来一昼夜かかっていた製氷がわずか3分で済む画期的なもの。その登場は産地から小売りまでの生鮮物流に革命をもたらしたと称されています。

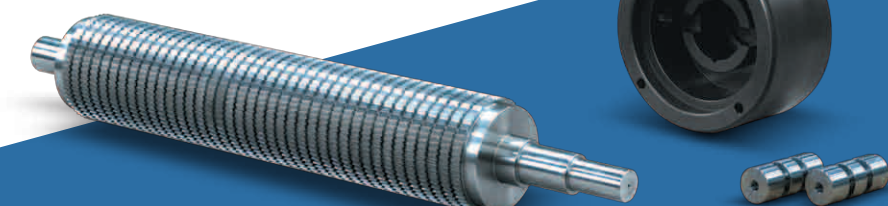
このシステムに代表されるように、同社の開発機には設計、製造の実務にあたるエンジニアの創意工夫が存分に生かされています。佐藤社長は「顧客の元に出向いて生の声を聞いたり、現場で経験を積んだりするのが何よりの教育になる」と言い切ります。

同社製品のほとんどに使用される3D計測やセンシングなどの先進技術は、外注せず、社内のエンジニアが独自に開発する体制を構築しています。「今後も、AIをはじめとする最先端技術を積極的に社内に取り入れて、常に進化した機械をお届けしていくためです」(同)。



複雑形状の部品加工ではINTEGREXが活躍

▶ 魚の皮を剥ぎ取るローラー部品(左)など、装置に組み込まれる主要な部品の多くはマザック機で加工



Customer Report 02

● Japan 株式会社 ニッコー

生産性を20%も向上させた
3D FABRI GEAR

同社の設備機械のうち、主力はマザック機が担っています。FJVやINTEGREXなどの工作機械に加え、3Dレーザ加工機FABRI GEARなどを導入。「現場の使いやすいものを」という佐藤社長から機種選定を一任された床秀樹製造部長兼工場長は「複合加工機や3Dレーザ加工機による大幅な生産性向上とマザクトールの容易な操作性、導入後の加工技術相談などのサポート体制が決め手です」とマザック機導入の理由を明かします。



「CNCが使いやすい」という現場の声がマザック機導入を後押しした

たとえば、3D FABRI GEARでは「手作業による切り出しや治具による穴加工に比べ作業効率と精度が格段に向上。生産性も平均20%向上しました」と評価。INTEGREXに対しても「工程集約による生産リードタイムの短縮だけでなく、加工できる部品の範囲が広がりました」と導入効果を認めています。

2018年11月には新たにミル機能付きCNC旋盤を導入。「これまで3機種で行っていた加工が1台で済むため、リードタイムの短縮に期待しています」(同)。水産業を取り巻く環境変化が同社の方向性を決定づけたように、今後は同社の製品群が世界の水産加工を変えていくでしょう。



01

Customer Report 03

50年を超える実績と信頼で資源採掘に貢献

Australia FLSmidth ABON Pty Ltd

オーストラリアのメルボルン近郊に本拠を置くFLSmidth ABON社は鉱業用破碎機製造のリーディングカンパニーです。主に石炭、鉄鉱石、銅など鉱物資源の採掘場で使用され、さらにはアルミニウム製錬所、化学肥料工場やセメント工場などさまざまな産業の現場で使われています。ABONブランドの製品は、高い設計力と製造技術力で鉱物の試掘、採掘会社をはじめとした大手資源会社から絶大な信頼を得ています。



02



03

- 01. 長尺シャフトの大幅な生産時間短縮を実現した INTEGREX e-800H(心間8000)
- 02. 工場内で活躍するINTEGREX eシリーズ
- 03. マザック機で加工した大型ギアが使われた破碎刃付きローター

COMPANY PROFILE //////////////////////////////////////



FLSmidth ABON Pty Ltd

General Manager : Phillip Mulcahy
所在地 : 15-19 Marshall Road Airport West, Victoria Australia 3042
従業員数 : 80名

www.flsmidthabon.com



工程集約で加工時間を大幅短縮

同社は以前、破碎機のシャフト加工を複数の工程、機械で行っていましたが、リードタイムの長さが課題でした。生産設備について検討を重ねた末に選んだのは、オーストラリアのマザック販売代理店 JOHN HART 社から提案されたマザック製複合加工機 INTEGREX e-650H。「さまざまな種類のシャフトをたった2回のセットアップで仕上げることができ、加工品質も申しぶんない」とGeneral ManagerのPhillip Mulcahy氏は同機種に決めた理由を振り返ります。2005年のINTEGREX e-650Hの導入を機に、生産性と加工精度は格段に向上しました。



スムーズギアホッピング機能によるスプライン加工を施されたシャフト

生産革新で顧客の高い要望に応える

同社は1号機に続き、INTEGREX eシリーズを中心に2016年から2017年にかけて5台を追加導入。INTEGREX e-1600Vではスムーズギアスカイピング機能、スムーズ

Customer Report 03

 Australia FLSmidth ABON Pty Ltd

ギアミリング機能を駆使した大型ギアの加工を、e-800Hではスムーズギアホッピング機能による長尺シャフトのスプライン加工を行っています。マザック機の導入により、旋削・マシニング加工にギア加工も含めた全加工を自社内で完結できるようになったことで、生産時間の大幅な短縮を達成。特に長尺シャフトの生産リードタイムは、3週間から数時間へと劇的に短くなりました。「当社では、マザックの複合加工機を活用して、部品の加工工程の集約に工夫を重ね、顧客からの高い要望に応えています」とマネージャーのDavid Colasante氏は改めて設備投資効果を強調します。



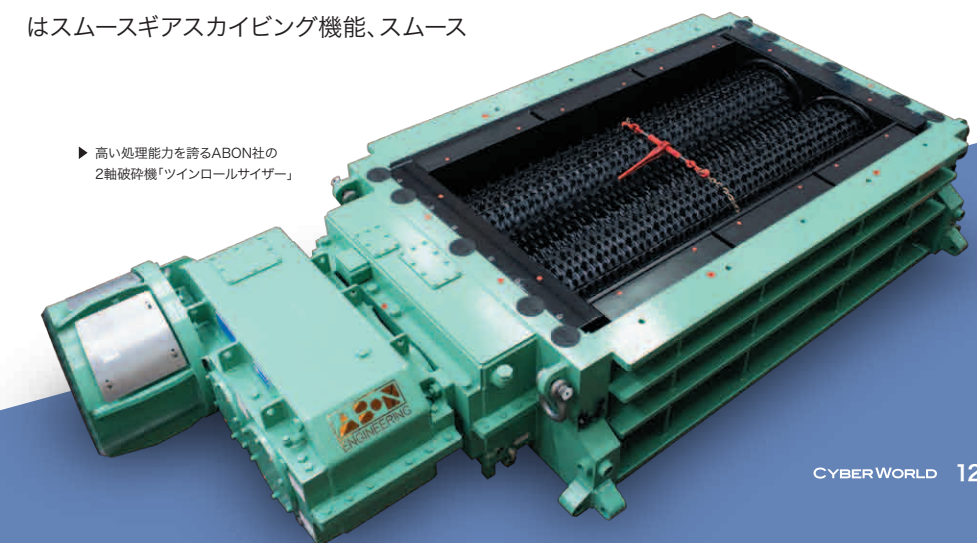
JIMTOF2018で展示されたABON社の大型ギア(右)は会場で大注目を集めた

近年のアジアの経済発展に伴うエネルギーの需要増を背景に、資源関連産業は今後も成長が見込まれます。ABON社は、常に最先端の設備機器を導入して生産革新をすすめ、新しいソリューションをお客様に提案することで、鉱物資源の採掘に大きく貢献していくことでしょう。



David Colasante ManagerとPhillip Mulcahy General Manager(右)

▶ 高い処理能力を誇るABON社の2軸破碎機「ツインロールサイザー」



MAZAK PEOPLE

東海・北陸・信州販売部 名古屋テクニカルセンタ(名古屋営業所)

 **源嶋 友美 さん**

自らの「気付き」で、 より精度の高い提案を

製造から販売、アフターフォローまで、国内外にたくさんの関連拠点を展開するヤマザキマザック。MAZAK PEOPLEはグループ各社の第一線で活躍する人々を取り上げます。今回登場するのは、名古屋テクニカルセンタ(以下、T/C)で営業を担当する源嶋友美さん。多くのお客様を抱える大型営業拠点で日々経験を積む、女性営業社員のホープです。

PROFILE » 源嶋 友美さん

2008年に入社後、半年間の研修を経て筑波T/Cに配属。2014年に名古屋T/Cに異動後、愛知県・岐阜県にまたがるマザック本社エリアの営業を担当。

—どんなお客様を担当していますか？

主には自動車関連や産業機械関連の部品加工を手がけるお客様を担当しています。名古屋T/Cが担当エリアは国内有数の産業集積地であり、お客様が加工する部品は驚くほど多種多様です。特注機の案件を頂くことも多いため、設計ははじめマザック本社の各部門と連携しながら、提案業務を行っています。

—今までで一番印象深い商談は？

初めて受注成約となった案件が一番印象深いです。2008年に入社後、最初の赴任地は筑波T/Cでした。翌年春から本格的に営業を任されたのですが、当時はリーマン・ショックの直後。お客様の仕事量は減ってしまい、販売活動には厳しい時期でした。しかし好景気で多忙な時期にはなかなかお会いできないお客様にも今なら時間をいただけたと考え、先輩社員のサポートを得ながらさまざまなお客様の工場へ足繁く通いました。先輩社員の助けはもちろん、幸運もあったと思いますが、粘り強い営業活動の結果、あるお客様から初受注をいただくことができました。記念すべき第一号はINTEGREXのオーバーホールの受注です。納入後、お客様に「はじめて手がけた機械だね」とお声がけいただいた時は本当に嬉しかったです。そのお客様には10年近く経った今でも私の顔と名前を覚えていただいており、当時駆け出しの営業担当だった私の話を聞いていただけたことも含め、大変感謝しています。

—セールス活動で大切にしていることは？

時間の許す限りお客様の工場を拝見し、加工プロセスや設備の状況など、自分の目で直接確認することを心がけています。例えば、お客様が切削時間の短縮を課題に挙げている場合でも、工場全体を見渡すと段取り方法や周辺機器の使用状況にこそ解決すべき課題を発見することがあるからです。このように生産プロセス全体を俯瞰して生まれる「気付き」は、お客様への提案を

まとめる上で大切な要素になります。テストカットや特注設計の際、お客様の要望だけではなく、自身が感じた課題点も社内のエンジニアと共有することで、提案の精度を高めています。



アプリケーションエンジニアと密に情報共有し、提案の精度を高める

—日々の業務で感じるやりがいは？

工作機械を一台販売するには、多くの社員の連携が必要です。この「一人では成し得ない仕事」とであるという点に、営業職として働く面白さを感じています。マザックは一言でいうと「温かみのある会社」です。営業やサービス、設計、現場社員など、皆が助け合う雰囲気があります。お客様は社運を賭けて工作機械を購入されるため、提案業務は重責ある仕事ですが、マザックには皆がその責任を果たそうと一丸となって頑張る姿勢があります。皆で一つのことを成し遂げる連帯感を感じながら仕事をすることが、私のやりがいとなっています。

—今後取り組みたい仕事は？

とにかく今は、目の前のお客様に満足いただくことに全力を注ぎたいです。提案の精度をより一層高めて、お客様の生産性向上に貢献したいからです。そして十分な経験を積んだ後は、これまで得た知見を生かして、各T/Cの営業社員を後方から支援する業務に携わりたいと考えています。

「仕事は楽しく!うまくいかない時は、おいしい食べ物で気分転換!」をモットーに掲げる源嶋さん。持ち前の明るく熱意ある姿は、マザックのチームワーク力をさらに盛り立てるかけがえのない存在となっているようです。

休日の過ごし方

普段の休みの楽しみは、ペットのチワワと触れ合うこと。長期休暇の時は、海外旅行に出かけてリフレッシュ。ハワイやセブ島など、ゆったり、のんびりできる暖かい南の島が好きですね。



Event Report



第29回 日本国際工作機械見本市

マザックは昨年行われた「第29回日本国際工作機械見本市(JIMTOF2018)」に出展しました。ブースでは「Discover More With Mazak ー共に未来へー」をテーマとして、革新的なソリューションを披露しました。

特に好評だったのがハイブリッド複合加工機。世界初の青色半導体レーザを活用した「VARIAXIS j-600/5X AM(Blue Laser 仕様)」や、ギア加工・計測機能を融合した「INTEGREX AG」シリーズ、摩擦攪拌接合技術を融合した「FJV-60/80 FSW」を展示。高度な工程集約を実現するハイブリッド複合加工機は多くの来場者の注目を集めました。

AI・IoTコーナーでは、AIを活用したびびり抑制機能「Smooth AI主軸」や、IoTを活用した新たな総合サービス「Mazak iCONNECT」などを紹介。工場の生産性向上に寄与する画期的なソリューションとして高い関心を集めました。



純銅の積層が可能な「VARIAXIS j-600/5X AM(Blue Laser 仕様)」

今号の表紙



今号の表紙を飾るのは、JIMTOF2018のマザックブース中央に展示されたサンダーバード1号です。マザックは創業100周年を迎えるにあたり、「技術で社会や未来に貢献する」との思いを多くの人に伝えるため、特撮TV番組「サンダーバード」とコラボレーションした広告・プロモーションを昨年より開始しました。

JIMTOF2018マザックブースでも、サンダーバードを使った装飾・演出を行いました。ブース内には劇中に登場するスーパーメカの模型が展示され、ブース正面ではブルーのユニフォームをまとった説明員によるプレゼンテーションが行われました。趣向を凝らした遊び心のある演出は、多くの来場者の注目を集めました。

ヤマザキマザック美術館は、美術鑑賞を通して豊かな地域社会の創造、ひいては日本、世界の美と文化に貢献すべく、名古屋の中心地・東区葵に、2010年4月に開館致しました。

当館は、創立者で初代館長の山崎照幸(1928-2011)が蒐集した18世紀から20世紀にわたるフランス美術300年の流れを一望する絵画作品及びアール・ヌーヴォーのガラスや家具等、ヤマザキマザックのコレクションを所蔵・公開しております。

みなさまのご来館をお待ちしております。



エリザベト・ルイズ・ヴィジェ＝ルブラン 《リラを弾く女性》

スポットライトに照らし出されているように薄暗い空間に浮かび上がる、白いドレス姿の女性。頭の上には月桂樹の冠をのせ、大きな岩の上に黄金の竖琴を置いて抱え持ち、右手でつま弾いています。胸の下でリボンを結んで留めただけのゆったりとしたドレスは「シュミーズ・ドレス」。この絵が描かれた頃に流行した古代ギリシャ風の装いです。当時は古代ギリシャ遺跡の発掘が進み、古代ギリシャブームでした。彼女は舞台の上で、古代ギリシャの女流詩人の役を演じているところなのかもしれません。この作品を描いたのは、ヴィジェ＝ルブラン。フランス革命で断頭台の露と消えた王妃マリー・アントワネットに愛された肖像画家です。この作品はフランス革命の後、ヴィジェ＝ルブランがイギリスに滞在していた折に描かれました。白くきめ細やかな肌、青色に輝く瞳、柔らかなドレスの質感が生き生きと表され、彼女の肖像画家としての力量がいかに発揮されています。

エリザベト・ルイズ・ヴィジェ＝ルブラン(1755-1842) 《リラを弾く女性》 1804年 油彩・キャンバス



CHUASA I

アール・ヌーヴォーの伝道師 浅井忠と近代デザイン



ヤマザキ マザック美術館
開館8周年記念展

音声ガイド
無料サービス

2018年 11.17 [土]
- 2019年 2.17 [日]

- ◎ 開館時間：平日/10:00～17:30、土日祝/10:00～17:00 (入館は閉館の30分前まで)
- ◎ 休 館 日：月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌平日休館)、年末年始(12月29日～1月4日)
- ◎ 入 館 料：一般1,300円(10名様以上1,100円)、小・中・高生600円、小学生未満無料

浅井忠(1856-1907)は明治の洋画を代表する巨匠です。1900-02(明治33-35)年、アール・ヌーヴォー全盛期のフランスに「西洋画研究」のため留学した浅井は「パリ万国博覧会臨時博覧会監査官」の職も務め、アール・ヌーヴォーのデザインにも興味を持ちました。そして、フォンテーヌブローの森近くのグレー村をしばしば訪れて風景画を制作すると共に、現地の陶工アルベール・プエのアトリエで、陶芸デザインに取り組んでいます。帰国後は京都高等工芸学校(現・京都工芸繊維大学)で教鞭をとるかたわら、陶芸・漆芸など工芸作品のデザインにも積極的に携わりました。この展覧会では、浅井がフランス留学中や帰国後に制作した絵画と共に、彼がフランスで見たり、蒐集したりしたポスター・工芸作品、彼が制作した陶芸作品・工芸図案・彼の図案をもとに制作された工芸作品などをご紹介します。浅井忠の創作世界とアール・ヌーヴォーとの関わりを探ります。

浅井忠 《花》(部分) 1902-07年 水彩・紙 千葉県立美術館